

「介護という字を辞書で引いたら」

スイッチON!! 梅雨な感じの季節になってきましたね。春から夏にかけての自然界の若葉みなぎるこのパワーが大好きでワクワクします。日本には四季がありますが、春夏秋冬の期間では寒い時期が夏より多いと感じますので、この時期から太陽の恵みを満喫していこうとおもいます。

さて、唐突ですが「介護」という字をインターネットの辞書で検索してみました。

意味は、「病人などを介抱し看護すること。」と書いてありました。

ということは、語源は、「介抱」と「看護」がくっついて、「介護」という言葉が生まれたんだな〜と。

もう少し深掘りして調べてみました。

当時のホームヘルパー養成研修2級課程のテキストによると介護という言葉は、旧陸軍の傷兵院や廃兵院等で用いられた用語がルーツといわれ、介助の「介」と看護の「護」を組み合わせたものが語源のようです。そして、介護という言葉が公的に登場したきっかけは、1963年(昭和38年)に制定された老人福祉法と関係があり、老人福祉法の制定によって寝たきり老人を対象とする特別養護老人ホームが新しく設置されたことが始まりと。

ん〜。理屈はわかる。。。さて、一般の人が「介護」という言葉をネットや辞書で引けば上記の言葉が検索され、イメージが定着します。

介護の言葉の例として「寝たきりの母を介護する」と記載されています。

日頃から僕が言っている、いつかは我々も通る道。上記の一行で連想される僕たちの未来の道はエンターテイメントが感じられない。文章では愛情が感じられない。

僕たち介護で生きている千歳会メンバーには、ラブエイジングな人生をイメージしてほしい。自分の未来を愛する。“老いを愛する”。

そうなれば、目の前のおじいちゃん、おばあちゃんは未来の自分として“ラブエイジングな人生”をどう演出していくのかを考えられるようになるとおもうし、シンプルイズザ・ベストの心のつながりがみえてくるとおもう。

ちなみに、僕の「介護」という言葉の辞書は、

介護という字を辞書で引いたら「よりよい人生」という意味にする。

いつか僕たちのがんばりで、介護という字が、「よりよい人生」という検索に変換されればな〜と。

ぜひ、魅せる介護を実践していきましょう。そして、いつか僕たちの隣に立つ介護の人たちとともに「よりよい人生」を共に歩めるサービスをしていきましょう!

コロナ渦でのサービスの閉塞感がありますが、どうぞそれを習慣とせずエンターテイナーのあなたを磨いてください。



理事長の頭の中
〜おまけ動画〜Vol.5



社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

